

「委員会活動」を強制するな こんなものは「業務」ではない！

委員会活動と称する生産性向上運動が現場に強制されています。「有志」の活動と言いながら、幕張車両センターでは全員が強制的に何らかの委員会に割り振られています。さらに、勤務指定に委員会活動が指定され、「業務として強制」が行われています。

競争と蹴落とし合いを強制

委員会活動は、労働者に自分たちで「経営のため」「合理化のため」「金儲けのため」になることをやらせるものです。労働者同士で監視と蹴落とし合いを強制するものであり、自分の手で自分の首を絞めさせるものです。

JR東日本が今年4月に発表した経営ビジョン「勇翔2034」では、「社員一人ひとりが起業家精神を高めよ」と語られています。労働者としての意識を解体し、「経営者の立場で物事を考えろ」というのです。これがまさに委員会活動で行われていることです。

グループ理念では、「全社員で安心と感動を持続的に生み出す」ことが打ち出され、グループ会社の仲間に対してまで「感動したことは何ですか」とのアンケートが行われ、「感動を与える接客をしよう」と言われています。

現場では日々、車両をメンテナンスし、清掃し、列車の運行と安全を守っています。委員会活動は「業務」でも何でもありません。

何が「経営者の立場に立て」だ！

「経営者の立場に立て」という会社のやってきたことは何でしょうか。

鉄道業務をバラバラにして外注化し、JR本体の労働者に出向を強制し、職名を廃止し、人事・賃金制度を抜本的に改悪し、定期昇給や基準内賃金、乗務手当まで廃止しました。

グループ会社には徹底したコスト削減を強制し、まともな清掃もできない要員不足と超低賃金を強制してきました。検修業務でも休勤が続発しています。

ここまで現場を踏みにじってにおいて「経営者の立場に立て」？ 本当にふざけています！

団結して闘いに立ち上がろう

現場をどこまでもないがしろにする会社の施策は、すべてが破たんしようとしています。重大事故が続発し、要員確保もまともにできず、喜勢社長自身が「外注化のスキームは破たん」と言わざるを得ない現実です。

労働者の権利や生活、職場、労働者としての誇りや団結も、闘うことによってしか守れません。そして、団結して闘いに立ち上がれば、必ず展望は生まれます。すべての仲間は勤労千葉とともに闘おう。